学校図書費について

質問　学校図書の当市の基準について伺いたい。

　また、地方交付税における図書購入費の予算について伺いたい。

答弁　平成五年三月に学校図書館図書標準が定められ、学校の規模、いわゆる学級数に応じて整理するべき蔵書数の目標が定められている。その図書標準によると、地方交付税の措置における標準的な学校の蔵書数は、小学校は十八学級で一万三百六十冊、中学校は十五学級で一万二千百六十冊となっている。

　地方交付税として基準財政需要額に算入された額に占める学校図書館の購入費の予算については、平成十九年度の予算で、基準財政需要額一千六百五十三万八千円に対して、小学校と中学校合わせて予算額七百二十二万円で四三・七%となっている。この地方交付税以外にも市費を教育費として予算化しており、学力向上対策事業の一環として運用している。

子供会について

質問　子供会の必要性についてどのように考えているのか伺いたい。

　また、子供会加入の減少について具体的な対応策として取り組んでいるものは何か伺いたい。

答弁　子供会活動については、異年齢集団での活動を基本とするさまざまな体験により、自主性、協調性、創造性等が養われるなど、子供たちにとって人間形成のための有効な方法の一つであると認識している。特に地域の子供同士での集団活動の経験は、大人になった後も町内会活動など、地域における活動等への理解が容易になるものと思われる。

　当市においては、子ども会育成連合会が市内の子供会活動を支援し、各種事業を展開している。子ども会育成連合会とさらに連携を密にし、子供会リーダー研修会や保護者等の指導者研修会へ積極的にかかわりを持ち、子供会活動のより一層の活性化を目指していきたいと考えている。

　子供会への加入減少についての具体的な対応策は、町内会に子供が少ないなどの理由によって、活動を存続できなくなった子供会も見受けられるために、例えば、複数の町内会が連携して子供会再編の取り組みをする、小規模校においてはPTA活動の一環として子供会活動に取り組んでもらうことなどをこれから提案することによって、子ども会育成連合会とともに加入率向上を目指していきたい。

子供会主催のアドベンチャーキャンプから

山岳遭難について

質問　本年のこれまでの発生状況及び遭難防止対策について伺いたい。

答弁　十和田警察署管内における山岳遭難の本年の発生件数は、六月十三日現在で五件、遭難者は十三名、捜索人員は延べ二百九十二名となっている。遭難者の内訳は、市民が十一名、市民以外の者が二名で、死亡一名、行方不明一名、自力下山一名、無事救出が十名となっている。

　山岳遭難の防止対策については、十和田警察署、十和田市、六戸町、十和田市消防団など十五の団体及び機関を構成員とし、十和田警察署管内山岳における遭難事故を未然に防止し、遭難事故が発生したときに組織的活動を行うことを目的に青森県山岳遭難防止対策協議会十和田支部が設置され、当協議会十和田支部において、さまざまな防止対策を講じている。

　防止対策の主なものとしては、十和田警察署を主体に春の山菜とりや秋のキノコとりの遭難防止チラシの作成及び配付、山岳パトロールの実施、立て看板の点検及び設置、県警ヘリコプターによるパトロールの要請、山岳遭難救助訓練の実施などを行っている。市においても「広報とわだ」に入山前や入山後の心得、万一遭難したときの心得を掲載し、注意を呼びかけるなど、遭難防止の啓発に努めている。

学校支援地域本部事業について

質問　当市の教育現場、教育環境、現今の教育事情から、学校支援地域本部事業に対し、どのような考えを持っているのか伺いたい。

答弁　学校と地域が一体となって学校教育を推進することは大切なことであると認識している。現在市内の学校において、PTAや地域の方々や関係機関、団体と連携し、ゲストティーチャーや登下校時の安全パトロール、学校図書館ボランティアなどの活動をしている。これらの活動にかかわる人材の確保や情報収集は、各学校が主体的に行っている。学校が望む支援の種類、内容は、現状ではそれほど多岐にわたっていないので、それに適した人材の確保や情報収集も、東京都のような大都市とは異なり、当市では比較的容易な状況にある。このようなことから、今のところ改めて学校支援の組織をつくる必要性は感じていない。むしろ各学校がそれぞれの地域の実情に応じて、これまで築き上げてきたPTAや地域の皆様との良好な関係をさらに深めるよう、学校や地域に働きかけていきたい。

観光経済

十和田湖の風評被害について

質問　鳥インフルエンザによる観光地十和田湖で風評被害等の問題はないのか伺いたい。

答弁　十和田湖畔の宿泊客などの一部にキャンセルがあったことは把握しているが、宿泊客などがキャンセルの理由を言わない限り、その原因が風評によるものか、別の事情によるものか、判断は困難である。なお、地元の方には観光客から問い合わせがあった場合は、過度の心配は要らない旨の回答をするよう連絡を徹底した。